

不二製油グループのアプローチ

重要な理由	経営資本強化の取り組み	
■ 人口増加に伴うタンパク源のひっ迫や環境負荷の増大、食の偏在の懸念 ■ 農産物を主原料とする事業構造上、気候変動や自然の劣化による原料収量の低下や価格変動、規制対応コスト増加を通じて、中長期的に企業価値へ重大な影響を及ぼす一方で、環境に配慮した原料・技術・製品への需要拡大は、競争優位の確立と機会の拡大につながる	自然資本	■ 森林破壊の防止と森林再生の促進 ■ 生物多様性・土壌・水資源など自然生態系サービスの保全と回復 ■ 気候変動リスクの低減 ■ 地域コミュニティと連携した持続可能な土地利用の推進
	社会・関係資本	■ 環境負荷低減に向けたサプライヤーとの連携強化 ■ 安定的かつ持続可能な原料調達体制の構築 ■ 透明性の高い開示によるステークホルダーとの信頼関係強化
	製造資本	■ 環境負荷低減に向けた技術革新・製造プロセス改善
取り組みの方向性	知的資本	■ 消費者の価値観の多様化に対応した植物性素材の開発 ■ 原材料価格の変動に強い製品設計 ■ 食品の保存性向上や廃棄物の有効活用を通じた新たな価値創出 ■ 上記による技術的競争優位の確立
	人的資本	■ 環境人材の育成、ネイチャーポジティブな価値観の浸透

戦略

重点項目		多様な植物性素材の創出	フードロスの削減とアップサイクル	循環型フードシステムの構築	CO ₂ の排出削減	水使用量の削減	廃棄物の削減	生物多様性の保全と回復
リスク		■ 気候変動・生態系不安定化による原料調達・価格上昇リスク ■ 需要集中・規制強化による原料調達リスクの拡大 ■ 動物性原料を取り替へ健康・環境面の懸念と供給・価格面の不確実性	■ フードロスへの対応不備・遅れによる社会やステークホルダーからのレピュテーションの低下 ■ 環境規制の不適合による事業継続リスク、規制対応コストの増加	■ 気候変動に伴う異常気象による原料調達、物流、製造などバリューチェーンの各段階でのコストの増加	■ 環境規制対応、炭素税導入によるコストの増加 ■ 異常気象に伴う原料調達量不足、製法の制限、生産量減少による市場・顧客が求める製品供給の停止 ■ 異常気象に伴う自然災害の激甚化によるグループ会社の損失 ■ 環境問題への対応不備・遅れによるステークホルダーからのレピュテーションの低下	■ 主原料の生産地における水資源枯渇・汚染に伴う収量減少と相場乱高下による原料調達コストの増加 ■ 水コストの増加	■ 廃棄コストの増加	■ 規制強化・新たな規制導入による対応コストの増加、法規制違反による市場・顧客からの長期的な信用失墜、収益性・企業価値の低下 ■ 主要原料の生育環境変化、原産地での生態系崩壊(花粉媒介生物の減少など)に伴う収量減少と相場乱高下による原料調達コストの大幅増加 ■ 生物多様性に配慮した代替原料を使用する製品の需要の高まりによる開発・生産コストの増加
	機会	■ 原料調達リスクや供給不安が高まる中、多様な植物性素材による調達先・利用用途の分散と供給安定による収益拡大 ■ 環境負荷低減やサステナビリティを重視する市場ニーズを背景に、多様な植物性素材の機能性・用途提案を通じた付加価値創出 ■ 食の多様化や嗜好変化を背景に、植物性素材ならではの「おいしさ・使いやすさ」を活かした用途拡大による成長機会創出	■ フードロスを削減する素材、アップサイクル製品の供給拡大による収益性の向上	■ 環境保全による持続可能な原料調達、高付加価値素材に達した生産工程導入による収益性の向上	■ 環境負荷の少ない認証油や植物性素材の供給拡大	—	—	■ 原料価格の高騰・原料調達の不安定化に伴う規制強化により認証原料(RSPO ^{※1} 、RTRS ^{※2} など)の供給拡大による収益性の向上 ■ 生物多様性に配慮した、代替原料(酵母油脂など)を使用する製品の供給拡大による収益性の向上 ■ 外来種やGMO作物 ^{※3} の選出への対応に伴う社会的信用向上による市場・顧客の獲得
リスク・機会の財務影響	短期	低	低	低	高	低	高	高
	中期	高	中	低	極高	低	高	極高
	長期	極高	高	高	極高	低	高	極高
バリューチェーン	上流	●	—	●	●	●	—	●
	自社	●	—	●	●	●	●	●
	下流	●	●	●	—	—	—	—
目指す姿・目標		■ 植物性食品の広い普及と食の選択肢の拡大による食料課題解決への貢献および当社グループ挑戦領域の拡大	■ 技術イノベーションならびに副産物の再利用を通じたバリューチェーン上のフードロスおよび廃棄物削減	■ 気候変動の影響を受けにくく、環境負荷が低いサステナブルな循環型社会システムの構築に資する技術開発と市場展開	<環境ビジョン2030／2050> 2050年度目標:GHG総量ネットゼロ 2030年度目標: スコープ1+2:GHG総排出量42%削減 スコープ3(カテゴリー1) ・ 非FLAG:GHG総排出量25%削減 ・ FLAG:GHG総排出量30.3%削減(基準年:2020年度)			・ ネイチャーポジティブなバリューチェーンの構築
社会・環境インパクト	低減するネガティブインパクト	■ 非効率な資源の消費や廃棄物の排出 ■ サプライチェーン上のCO ₂ 排出量 ■ 水資源の枯渇 ■ 水資源の汚染 ■ 自然生態系の損失						
	創出するポジティブインパクト	■ 多様な食の選択肢による豊かな食シーンの提供 ■ 持続的なタンパク源供給による食資源の偏在の解消と健康増進への寄与 ■ 植物性食品素材の消費拡大による環境負荷の低減(CO ₂ 排出量の削減)						
中計基本方針との関係性		● 新たな挑戦領域の確立	● 成長領域の更なる強化 ● 新たな挑戦領域の確立	● 新たな挑戦領域の確立	● 成長領域の更なる強化 ● 新たな挑戦領域の確立	● 成長領域の更なる強化	● 成長領域の更なる強化	● 成長領域の更なる強化

※1 RSPO:Roundtable on Sustainable Palm Oil(持続可能なパーム油のための円卓会議)。
※2 RTRS:Round Table on Responsible Soy Association(責任ある大豆に関する円卓会議)。
※3 GMO作物:遺伝子組み換え作物。